

・5分前着席を心がけましょう

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

奏 楽 門 脇 陽 子 姉 妹

前 奏  
開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 15 : 1 わが主のみわざは

わが主のみわざはことごと正し 妙なるみ旨にすべてを任せん  
主はわが神なり ともしき時のわが助けなり アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 ( 詩 編 51 編 )

かみ 神よ、わたしを<sup>あわ</sup>憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの<sup>とが</sup>咎をことごとく洗い、<sup>あら</sup>罪から清めてください。わたしは<sup>とが</sup>咎のうちに<sup>う</sup>産み落とされ、<sup>はは</sup>母がわたしを身ごもったときも、わたしは<sup>つみ</sup>罪のうちにあったのです。

わたしを<sup>あら</sup>洗ってください。雪よりも白くなるように。かみ 神よ、わたしの内に<sup>こころ</sup>清い心を創造し、<sup>あた</sup>新しく<sup>たし</sup>確かな<sup>れい</sup>霊をさずけてください。救いの<sup>すく</sup>喜びを再びわたしに<sup>あじ</sup>味わわせ、自由の<sup>じゆう</sup>霊によって<sup>ささ</sup>支えてください。主よ、わたしの<sup>しゆ</sup>唇を開いてください。この口は、あなたの<sup>さんび</sup>賛美を歌います。主イエス・<sup>み</sup>キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、<sup>なにもの</sup>何者をも<sup>かみ</sup>神としてはならない。
2. あなたは自分のために<sup>ぞう</sup>刻んだ<sup>つく</sup>像を造ってはならない。それに<sup>ふ</sup>ひれ伏してはならない。それに<sup>つか</sup>仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの<sup>かみ</sup>神、<sup>しゆ</sup>主の名を、<sup>な</sup>みだりに<sup>とな</sup>唱えてはならない。主は、<sup>な</sup>み名をみだりに<sup>とな</sup>唱える<sup>もの</sup>者を、<sup>ばつ</sup>罰し<sup>ない</sup>ではおかない。
4. <sup>あんそくにち</sup>安息日をおぼえて、これを<sup>しゆ</sup>聖とせよ。
5. あなたの<sup>ちち</sup>父と<sup>はは</sup>母を<sup>うやま</sup>敬え。
6. あなたは<sup>ころ</sup>殺してはならない。
7. あなたは<sup>かんいん</sup>姦淫してはならない。
8. あなたは<sup>ぬす</sup>盗んではならない。
9. あなたは<sup>りんじん</sup>隣人について<sup>ぎしやう</sup>偽証してはならない。
10. あなたは<sup>りんじん</sup>隣人の<sup>いえ</sup>家をむさぼってはならない。隣人の<sup>つま</sup>妻、またすべて<sup>りんじん</sup>隣人 の<sup>もの</sup>ものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 72 : 1 心を高くあげよ

心を高くあげよ 主の御声に従い

ただ主のみを見上げて 心を高くあげよ アーメン

共同の祈禱 祈禱書22 救済史祈禱③アブラハム契約

全能の神さま、あなたは、アダムからキリスト・イエスの到来までのあらゆる時代に、神の民を保ち、導き、増し加え、み言葉を与えて死より命に呼び返されました。

あなたは、信仰の父アブラハムを選んでカルデヤのウルから召し出し、彼とその子孫に契約を与え、約束の地をお与えくださいました。

その契約はキリストにおいて果たされ、約束の地は神の国として実現したことを、心から感謝します。（創世記12～22、ローマ4、ガラテヤ3、ヘブライ11、「聖書」一）

献 金 (黒)教会活動 (赤)九州伝道を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカが福音書 1章1 - 4節 (新約聖書99頁)

説教・祈禱 「初めから詳しく」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 24:1 まぶねの中にうぶごえあげ

まぶねの中に うぶごえあげ たくみの家に 人となりて

貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ アーメン

\* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日もお与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 68あまつ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の神をたたえよ

神をたたえよ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

古澤兵庫長老

## I ルカ文書について 福音書と使徒言行録

『ルカ福音書』の献呈の言葉は先ほど読んだ通りですが、『使徒言行録』の献呈の言葉を読んでみましょう。

「テオフィロさま、私は先に第一巻を著して、イエスが行ない、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。」

そこで、『ルカ福音書』が第一巻、『使徒言行録』が第二巻ということになります。合わせて「ルカ文書」と言われますので、『ルカ福音書』は「ルカ文書」の第一巻として、第二巻も参照する必要があります。そして前回も言いましたが、ルカはパウロの弟子なので、パウロの手紙も参照する必要があります。

ルカは、いつパウロの弟子になったのか。それは『使徒言行録』の「私たちは」という言い方が出てくるところでハッキリする、とされています。それは使徒言行録16章10節ですが、いわゆる「マケドニア人の幻」というところで、パウロの第二回伝道旅行の始め頃です。それまでは「彼は」とか「彼らは」という書き方でした。「私たちは」という言い方に変わった所から、ルカはパウロの伝道旅行に加わったと言われます。ですから、厳密に言えば、いつパウロの弟子になったかと言うより、いつ第二回伝道旅行に加わったかが分かるだけです。

「コロサイの信徒への手紙」最後の「よろしくリスト」に、「愛する医者ルカ」と載っています。「コロサイの信徒への手紙」はパウロの手紙の中でも初期の頃と言われますので、ルカは、ほぼ全てのパウロ書簡を知っています。また、「コロサイの信徒への手紙」はじめ、いくつかのパウロ書簡は福音書より先に書かれたと言われますので、ルカが福音書を書いた時、すでに重要な文書資料があったと言えます。

ついでながら、いくつかのパウロ書簡は福音書より先に書かれたということは、最初に書かれたと言われる『マルコ福音書』よりも先なので、福音書がイエスの伝記ではなく、イエスがキリストであるというメッセージを語っているという点で書簡と同じです。特にコロサイ書のテーマは「キリスト告白」です。

## II 宛先 「テオフィロさま」

第一巻も第二巻も「テオフィロさま」に宛てて書かれています。「テオフィロさま」とは誰なのか、調べても分かりません。ローマ帝国の高官なんだろうとされています。それが地方総督であれば、主イエスの十字架刑を扱ったポンテオ・ピラトや、パウロの裁判を扱ったフェリクス（使徒23：23～）やフェストゥス（使徒25：1～）に当たります。通常、裁判の文書は詳しく細かくなります。また、フェリクスやフェストゥスは、確かにパウロを詳しく尋問したので、始めからルカ文書のような詳しい証言書があれば便利です。

パウロを告発したユダヤ人たちはフェリクス閣下に「閣下御自身でこの者を詳しくお調べになれば、私どもの告発したことがすべてお分かりになるかと存じます」と言っているので、告発された側も詳しく弁明する必要があります（使徒24：8）。もしかしたら、

すでに一緒にいるルカが「初めから詳しく」弁明書を書いたのかも知れません。それは「ルカ文書」の第一巻『福音書』と第二巻『使徒言行録』を合わせたほど詳しくです。

新共同訳聖書では、『ルカ福音書』が64ページ、『使徒言行録』が60ページで、合わせると124ページにも及ぶものです。パウロの手紙は全部合わせると128ページですから、ほぼ同数です。また新約聖書は全部で480ページですので、パウロとルカだけで半分を占めます。これなら、次々と総督「閣下」が代わっても、それらは十分な弁明書になるでしょう。

しかし、それほど高官であれば、どこかに名前が残っていてもおかしくないはずです。ローマ法は非常に優れたきちんとした法律で、各国の法律の元になったと言われるほどです。公文書改ざんで、テオフィロが別人にすり替えられた、などとは考えにくいのです。

そこで、ルカが出版に際して、その当時知られていた人物の名前を挙げただけなのかも知れません。新約聖書の中で、前書きで正式な出版の体裁をとっているのは「ルカ文書」だけです。カルヴァンの『キリスト教綱要』も、フランス王に献呈する長い前書きがあります。しかし、実際にはフランス王のためだけに書いたのではありません。多くの人に読んでもらうためです。ルカの場合もそうで、テオフィロさまだけに読んでもらおうとして書いたのではありません。読めば分かるように、多くの人に福音を伝えようとして書いたものです。

もしかしたら、架空の人物かも知れません。というのは、その名前です。テオフィロ= Theophilos。テオはギリシャ語のTheosセオスで「神」、フィロはギリシャ語のPhilosフィロスで「友愛」。ギリシャ語で「愛」というと、アガペーとエロースがよく比較して論じられますが、もうひとつ「フィロス」というのがありました。友愛セール「友愛」です。そこでテオフィロとは「神の友」あるいは「神に愛された者」という意味の名前になります。それなら一人の人に限定して書かれたわけではないですね。

### Ⅲ 多くの人々がすでに手を付けている 様々な福音書

1-2節「私たちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々が私たちに伝えたとおりに、物語に書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。」

多くの人々が既に手を着けている中に「最初から目撃して御言葉のために働いた人々が」います。それはキリストの十二弟子。また、十二弟子と共に働いた人々です。その人たちが「物語に書き連ねようと」したのは、「私たちの間で実現した事柄」、救い主による救いの出来事です。

そこで、十二弟子やその周辺にいた弟子たちの名前が付いた福音書であれば間違いないかということ、そうではなかったのです。その名前を使って書かれたニセモノが出回っていたのです。ルカは使徒言行録で、裏切り者のユダの代わりに一人を選んで十二弟子をキープした出来事を書いています。その場には「120人」ほどの人々がいました(1:15)。その中から選ぶので次のように言っています。「主イエスが私たちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、私たちが離れて天に上げられた日

まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、私たちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」（1：21-22）

つまり、主イエスがキリストとしてお働きになった3年間を共にした弟子たちが証人になるべきだと、言っています。だから、福音書は、人間イエスの物語「イエス伝」ではなく、イエスがキリストであることの証言書です。ところが、人間イエスの物語を書いて売ろうとした人たちがいました。売れるように、おもしろくしようと、作り話を入れるわけです。

ルカは、イエスの少年時代のエピソードを一つだけ入れています。12才の時、エルサレム神殿に行った時の事です。そして、それは、ちゃんとした意味があることを書いています。新約聖書に入れられた四つの福音書には、マタイとルカが誕生物語を入れて、ルカが少年時代のエピソードを一つだけ入れました。それ以外、30才でキリストの仕事を始められるまでの青少年時代のエピソードはありません。ところが、そういうところに興味を持って、あることないことごちゃ混ぜにして物語を書いたニセモノが出回っていました。

そこで、ルカは、3節で、「敬愛するテオフィロさま、私もすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。」と言って、福音書執筆に取り組んだのです。

#### IV すべての事を初めから詳しく調べ 資料 取材

「すべての事を初めから詳しく」と言っても、意味のある誕生物語と12才のエピソード以外は、30才から3年間、キリストとしてお働きになったことであることは、マタイ、マルコと同じです。

また、「すべての事」と言っても、マタイやマルコにはあるが、ルカにはない記事もあるので、ルカの方針で「すべての事」と言ってよいでしょう。たとえば、誕生物語は確かに詳しいですけれども、マリアの夫ヨセフに天使が現れた話は、ルカにはなくてマタイにあります。ルカはお医者さんらしく「すべての事を詳しく調べています」が、どういう方法があったのでしょうか。一つは文書になっていた資料、もう一つはパウロや使徒たちの説教を含めて弟子たちから聞いたこと。そしてもう一つは、直接取材したことです。

文書になっていたのは、パウロのいくつかの手紙とマルコ福音書が、まず第一に重要な資料です。これらは新約聖書に入っているので、私たちも読むことができます。他にどんな文書があったかは推定するしかないのですが、「多くの人々が既に手を着けています」と言っているので、その中には、最初からの目撃証人が書き留めておいたものがある可能性があります。たとえば、主イエスの言葉を書き留めておいたもの、主イエスの奇跡のみわざを書き留めておいたものがあったかも知れません。そしてまだ書き留めていなかった説教や伝聞。

それから、ルカが直接取材した事柄が考えられます。たとえば、主イエスの誕生の次第は、確かにルカがいちばん詳しいのですが、乙女マリアだけが知っている事が多いです。マリアは不思議な出来事をすべて心に納めて思いめぐらす人だったと、ルカは書いています。これは、マリアに直接取材した可能性があります。主イエス誕生の時、マリアは15才。主イエスがメシアの仕事を開始なさった時、マリアは45才。ルカが福音書を書いてい

る時、マリアはおよそ75才です。まだ生きていて思いめぐらしている可能性があります。

主イエス誕生の前に洗礼者ヨハネが誕生した次第も、けっこう詳しく書いていますが、ヨハネのお母さんエリサベツは、その時もうおばあさんでしたから、エリサベツから取材した可能性は低いと言えます。しかし、ヨハネ誕生のことを天使から知らされたのは、お父さんになる祭司ザカリアでした。ザカリアも当然おじいさんですが、祭司なら詳しく書き留めておいた可能性があります。もしかしたら、マリアのことも書き留めておいた可能性があります。

復活の主イエスが弟子たちに現れて、「聖霊が降ると、・・・あなたがたはエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、私の証人となる」と言われました（使徒言行録1：8）。

生きておられるキリストの言葉が、聖霊の働きによって、東の地の果ての島国にも実現しています。異邦人はイスラエル人ではないので、「初めから詳しく」伝えてくれる福音書があることは、本当に感謝なことです。そして、私たちがキリストの証人となっていることは、まことに光栄なことです。「イエスがキリストであること」、すなわち、救い主による救いを証言する使命を覚えましょう。